

生産性を高めるチームのメンバー構成

新たな組織・プロジェクトをスタートする際、どのようなメンバー構成にするか検討しますが、多くのマネジャーや人事のみなさまは、外交的で明るく元気で発信力がある方ばかりを集めたがります。しかし、外交的な人だけで構成されたチームは、慎重性に欠ける傾向が高く、準備不足であったり、フェアな視点が欠けたりと、チームとしての思っていたよりも生産性が高まりません。では、どのような特徴のメンバーでチームを構成するとチームの生産性が高めるのか、ご紹介いたします。

1. 「社会的感受性×コミュニケーション力」が高い人材を一人は混ぜる

- ・ 「社会的感受性」とは、他人の感情を理解する・察知する能力で、EQに近い概念です。
- ・ カーネギーメロン大学が行った実験では、699名の被験者を集め、無作為に2名～5名のグループに分け、パズルなどの頭を使う課題を複数実施しました。結果、好成績チームには「社会的感受性」の高いメンバーがおり、集団的知性が上がることが実証されました。この実験では、IQの高さが成績にどう影響したかも調査されていますが、IQの高さはチームの成績には無関係であったことも実証されています。
- ・ 「社会的感受性」が高いだけでは、その能力は十分に発揮されません。チームの中でコミュニケーションを積極的にとり、察知した他人の感情を上手くコントロールしていくことが実際の組織成果を出すためには必要です。つまり、「社会的感受性」の高いメンバーが積極的コミュニケーションをとる、周囲と関わる役割を付与することが重要です。リーダーと言うよりは、ミーティングをまとめたり、進行するファシリテーターのような役割がお勧めです。

2. 多様性に富んだ構成であること

- ・ 男女混合は最初の一步です。ある実験では、無作為に集めた被験者を「男性のみ」「女性のみ」「男女混合」の3グループに分け、同じ課題を与え競わせたところ、毎回必ず「男女混合」のチームが最も良い成績を出しています。
- ・ 男女のみならず、より多様な人材でチームを構成すると、多角的な視点でモノゴトを捉え・検討し、誤った判断を起し難くなります。
- ・ 冒頭に記載した通り、外交的な人が意外とチームに貢献しないことが2012年カリフォルニア大の研究で実証されています。チームの中に、内向的・外交的など、性格的にも多様性に富んだメンバー構成をお勧めいたします。

「ダイバーシティ」が組織の生産性を高めるために必要であることは、昨今常識となっていますが、実際に自社の組織・プロジェクトのメンバー構成を是非、見直してみてください。